

単語力をアップ
するために

はんぶん遊び... だけど
実は
すごく大切な

英単語クイズ 1/2



もくてき 1：音の足し算に慣れる

◎「音の足し算」を意識して読み、単語と意味を線で結びましょう。

ban	= b + an	•	•	毛布
bank	= ban + k	—————	•	銀行
blank	= b + l + ank	•	•	禁止する
blanket	= blank + et	•	•	白紙の、空白

【Tips!】 英単語は、基本的に「音の足し算」によって成り立っています。読めさえすれば、意味も何となくわかりませんか。

もくてき 2：知っている語・既得知識を生かす

◎ヒントを参考に、単語と意味を線で結びましょう。

peel	≡ peeler : ピーラー	•	•	わかす
boil	≡ boiler : ボイラー	•	•	皮をむく
form	≡ formal : 形式的な	•	•	供給する
supply	≡ supplement : 補足	•	•	形

【Tips!】 peel = peeler - er だと気づかずにいる人は少なくありません。暮らしの中でよく目や耳にする語、すでに知っていることを生かしましょう。

英単語クイズ 2/2

もくてき 3：音と意味との関係に気づく

◎「音から受けるイメージ」をたよりに、単語と意味を線で結びましょう。

cling	•	•	しぼる、ねじる
wring	•	•	くつつく、しがみつく
stick	•	•	縫う、ひと針
stitch	•	•	突き刺す

【Tips!】 cl は日本語の「くるっと」、st は「すっと」にも音が似ています。-ck と -tch ではどちらが「針で縫いつける」感じがするでしょう。

◎「音から受けるイメージ」をたよりに、下線部にふさわしい単語を選びましょう。

Don't _____ on the brake when the road is wet.

道路がぬれているときは、急ブレーキを踏むな

- ① slap ② slash ③ slam ④ slat

【Tips!】 単語の意味も、丸暗記するのではなく、「音から受けるイメージ」や文脈から推測してみましょう。slap / slat では力が抜けてしまいそうです。

もくてき 4：語の成り立ちを知る

◎語の成り立ちに注目して、単語と意味を線で結びましょう。

import	= im : 中に + port : 港	•	•	印象
export	= ex : 外に + port : 港	•	•	表現
impression	= im + press : 押す + ion	•	•	輸入する
expression	= ex + press : 押す + ion	•	•	輸出する

【Tips!】 「拍手」の「拍」が「扌」と「白」から成るように、英単語の多くも「語根（語の中核部分）」や「接頭辞、接尾辞（語根の前後につくもの）」の組み合わせでできています。

英単語クイズ 補足説明 1/2

- ◆ 英単語クイズは、RISE English Course 英単語カレンダー の効果的な使い方を説明いただく際に、導入用の教材として作成されたものです。
- ◆ このクイズの目的は「これならできそうだ！」とやる気を引き出すことですが、問題の中では英語検定準2級程度の単語も取り上げています。様子を見ながらヒントを与え、さらに必要があれば先生が単語を読み上げるようにしてください。

もくてき 1：音の足し算に慣れる

- ◆ 音の足し算に慣れば、pan – plan – plant – planet – (planetarium) / tea – team – steam – stream などほとんどの単語は、わずかな練習で読み書きできるようになります。ここで例に挙げている単語は、暮らしの中でも見聞きするものばかりであることにも注目しましょう。
- ◆ ban は abandon：見捨てる / banish：追放すると同一語源、ban の音からは否定的な響き、-sh は「出」にも通じるものが感じられます。
- ◆ 程度は違って、b + an などの「音の足し算（音韻操作）」に特異的な困難を示す生徒は各クラスに必ず数人はいます。bank に l を挿入して blank とするようなことは特に難しく、これを「ブルアंक」と読んで意味理解につなげられないこともあります。正解を確認する前に一度は、先生が単語を読んで聞かせるようにしましょう。

もくてき 2：知っている語・既得知識を生かす

- ◆ 過去の統計調査から推測すると、現代の子ども達は小学校高学年でも、1,000語からそれ以上のカタカナ語を身につけていると考えられます。
- ◆ 他にも以下のような例を挙げ、暮らしの中で得た知識を生かせば、より簡単に語彙が増やせることを確認しましょう。

hang：かける – hanger：ハンガー / slide：滑る – sliding：スライディング

pack：詰め込む – packet：小包 / attract：引きつける – attraction：アトラクション

- ◆ カタカナ語知識は発音においてマイナス要因、母語干渉のもととなることもあります。peel の ee は「口を横に開いてイー」、peel / boil の l は軽く「ウ」と添えると英語らしい音になることを伝え、カタカナ語との違いも意識させましょう。
- ◆ 例えば数学では高得点を取る中高校生の中にも、カタカナの読み書きに困難を示す子がいます。音韻操作を苦手とする子はカタカナ語のボキャブラリーも少なくなりがちです。一人一人の回答の様子を見ながら、個に応じた支援を心がけましょう。

英単語クイズ 補足説明 2/2

もくてき 3：音と意味との関係に気づく

- ◆ 英語だけでなく、単語の中には「擬音語・擬態語」から生まれたものが多くあります。cling の cl- の音からは「くるっと手を回してしがみつく様子」がイメージされます。
- ◆ club は「棒の先がくるっと丸まったもの = こん棒」、「くるっとまとまったもの = 倶楽部」を意味します。
- ◆ wring の wr- は wrist：手首 / write：書く / wrong：間違った（←捻じ曲げられた）などにも通じます。turn / curl / circle 等「回転、曲がり」などを表す語の多くに r が含まれること、アメリカ発音の r は巻き舌で発音されることにも注目させましょう。
- ◆ cling の l に比べて wring の r の音は「暗く重い響き」があります。さらに、軽くねじる場合と力を込めてねじる場合では発音がどう変わるか、ねじる真似をしながら比較してみましょう。stick / stitch / stab：ナイフなどで刺す等の st- からは日本語の「すっと」に通じる意味合いが感じられます。さらに st- には stand：（動かないで）立っている / stay：とどまるなど「ずっと、じっと」と言った意味合いもあります。
- ◆ catch：つかまえる / touch：さわる / patch：当て布 など、-tch からは「ぴったりと密着する様子」がイメージされます。
- ◆ slap 等 sl- の音からは「素早い動き」がイメージされます。他にも sl- は、「slide：するっと滑る」、「slow：そろりと動く」、「slim：すらりとした」様子をイメージさせます。いずれも日本語の音と似ていることに注目させましょう。
- ◆ slap：平手で打つ の -p の音からは「パン」、slash：切り取る の -sh の音からは「シュッと切る音」、slam の -m の音からは「ムッと力を込める様子」がイメージされます。
- ◆ m は唇を閉じて発音することにも注目させましょう。

もくてき 4：語の成り立ちを知る

- ◆ port は portable：持ち運べる でもなじみがあります。important は「中に運ぶほどの」ものであることから「大切な」ことを意味します。
- ◆ im- は in- の異形です。次に続く音が p など口を閉じて発音する場合は、やはり口を閉じて発音する im- となることを確認しましょう。
- ◆ press は pressure：圧迫（press + ure）でもおなじみですが、「押し付けること」から「印刷機」「報道機関」も意味します。
- ◆ -ure で終わる語は nature / future / picture / measure / treasure / pleasure、-ion で終わる語は mission / passion / action / nation / station / vacation / animation などそれこそたくさんあることを確認しましょう。
- ◆ 同じ語尾をもつ語を調べるなどする際には、逆引き辞典を活用しましょう。

授業の中で 英単語カレンダーを生かす

ステップ1：彼を知り己を知る

- RISE English Course 英単語カレンダー は、単語力をアップさせながら、語彙を学び取る力そのものを伸ばす英語教材です。まずは添付の「英単語クイズ」や「英単語の覚え方5つのポイント」などを使って、その特長をよく理解できるようにしましょう。
- cap や pen / end はすぐに読めても、clap / clamp の読みに時間を要したり、pendant を「プ・エンド・アント」のように読み「ペンダント」につながりにくいなど、英語を苦手とする生徒の多くが「音の足し算・引き算（音韻操作）」でつまづいています。
- ee は「イー」のように発音するなど、基本が身につけていない生徒も少なくありません。高校生以上でも、入門編を使って各自の弱点を補強できるようにしましょう。

ステップ2：実際に使ってみる

- 月初めに一カ月分の英単語を、各自で読んでくるように指示します。わからない語も辞書は引かずに、Tips! や前後の単語、意味などを参考に自分で考えて読むようにさせます。
- Tips! を確認し、クラスで音読します。一般的な能力は高くても、「音韻操作」に特異的な困難を示す生徒もいます。グループやペアなど練習形態を工夫したり、AETの協力を得るなどしてニーズに応じた支援を心がけましょう。
- 教室や廊下に「今月の単語」として書き出したものを掲示し、毎日一度は読むようにさせます。一カ月を前後半に分ける場合は、できるだけ区切れの良いところで分けるようにします。

- 家庭では毎日3~5分を目安に、単語を読んだり書いたりするようにします。
- 一度に10日から一カ月分をまとめて読むようにします。ある程度できるようになったら、速読（入門編の音読で30単語／15~20秒以内を目標）にも挑戦させます。
- 本教材は、何回も書いて練習しなくても覚えられるように工夫をしています。「ス - ア - ン sun」「ウル - ア - ン run」と発音しながら一度ずつ、前後関係を意識して書かせます。
- 机に向かってノートを開くというだけで、心理的ハードルが高まってしまうということもあります。例えば学校での休み時間などを使って、手のひらに指で書くのも方法です。
- 練習できなかった日の分を翌日に加算させたりはせず、負担が大きくなるようにしません。
- 月に一度か二度のペースで、単語の書き取りテストをします。その際も、カレンダーの順番通りに出題し、mend：直す が分からないときも、前後の blend - () - mental を参考にできるようにします。
- 教科書にカレンダー掲載単語、例えば depend が出たときには、ノートに前後の単語 pendant - () - independent を書き添えさせ、それが de + pend から成ることを確認します。
- 例えば invisible などカレンダーには掲載されていない語も、in + vis + ible に分けさせ、場面や文脈、さらに語根等をヒントに文意を推測できるようにします。